

# 2022年度 事業計画

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

## (1)調査研究事業

### ●シギ・チドリ部会

今年度も準備のための会議については極力オンライン会議を利用するが、各地の団体のプロジェクトを支援するため、COVID-19 感染拡大が落ち着いたところで、現地の訪問も視野に、シギ・チドリ類の保全を目指した交流・調査・CEPA 活動を進めたい。

- 1) 岡山県玉島干拓地における生息地保全のための活動への協力。
- 2) 吉野川プロジェクトに対するデータ解析を中心とした協力。
- 3) 球磨川河口の条約湿地を目指す活動、博多湾における満潮時休息場に関する取り組みなどへの協力。

## (2)保全再生事業

### <1.保全再生事業>

#### ●沖縄・開発問題部会

- ・大浦川河口の鳥獣保護区指定をめざして
- ・泡瀬干潟に保護の網をかける

鳥獣保護区設定が先送りとなり、さらに新港地区での新たな埋め立て計画が発覚。地元の泡瀬干潟を守る連絡会の活動支援が急務となっている。引き続き調査の支援、ラムサール登録,EAAFP(東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ)のFNS登録等を支援するため、近々に地元と相談する。

- ・開発による湿地破壊問題を抱える地域の洗い出し(短期計画案より)
- 昨年度は着手できなかったので、今年度は取り組みたい。

- ・各地の開発問題について、意見書ほか必要に応じた支援活動

昨年度に交流できたアンバルの自然を守る会との支援を深めたい。

「水の自然な流れを守る」立場から、諫早湾開門、石木ダムや川辺川ダム、リニア新幹線への対応を進めるほか、関係する各地と交流を深めたい。

- ・昨年に続きオンラインを活用したイベントを実施する

#### ●田んぼの生物・文化多様性 2030 プロジェクト(田んぼ 2030 プロジェクト)

##### ・国内での活動

- ・ワークショップを開催し実行計画書を作成する。
- ・水田の農閑期における暗渠排水の排水抑制と生物多様性の向上についてアンケート調査と予備実験を行う。
- ・年間3回程度のオンラインのミニセミナー・意見交換会を実施する。
- ・世界農業遺産大崎耕土の管理者との情報・意見交換会(オンライン)および現地視察を開催する。
- ・ウェブサイトの更新を6回行なう。
- ・MLを通じて田んぼ2030プロジェクト参加者に情報提供を行う。
- ・メールマガジンを発行する。
- ・水田決議円卓会議準備会(ラムネットJ、環境省、農水省、国交省)を年6回程度開催する。
- ・ラムネットJ水田部会を毎月開催する。
- ・生物の多様性を育む農業を育む農業国際会議(ICEBA)の準備会に参画する。

・にじゅうまるプロジェクトの後継組織へ参画する（NBSAP フォーラムの企画運営など）

\* 予算 18 万円（IUCN-J からの委託費）

## ●国際的な活動

・生物多様性条約 COP15 に参加し、生物多様性の中でも湿地保護の観点を発信する。

・ラムサール条約 COP14 に参加し、ブース展示等を行うとともに政府、その他機関の協力を得てサイドイベントを開催する。

・ラムサール条約 COP14 の参加報告会を開催し、国内へ発信する。

\* 予算 306 万円（地球環境基金助成 256 万円、企業協賛金 50 万円）

## ●国際条約・国際会議に基づく湿地保全

●**ラムサール条約**:ラムサール条約 COP14 およびその後の新規の条約湿地登録にむけて球磨川河口、吉野川河口、泡瀬干潟などの地域での活動を支援する。また、既存条約湿地を含む国内の重要な湿地の維持・管理や利用計画の改善にむけて、環境省や自治体等へ働きかけを行う。 (\* 予算 10 万円)

●**ラムサール条約 COP14 サイドイベント**:「水の自然な流れ」に関するブース展示や、同テーマで WWN や韓国 KWNN と協力してサイドイベントを行う。

\* 予算 786,000 ( /175 万円 経団連自然保護基金)

●**ラムサール条約 COP14 でのメンター制度の試行事業**（ユースの能力構築のための実地研修を目指す）

\* 予算 IUCN-J からの委託費：60 万（派遣費 1 名分は別費用）

## ●生物多様性条約

生物多様性条約関連の国際会議や国別報告書の点検など条約運営の枠組みを通して、国内外の湿地保全を進める。中国雲南省で開催が予定されている生物多様性条約 COP15 へ参加し、国内の湿地の生物多様性保全の課題を示すとともに、国内外の湿地保全の取り組みを進める。

(予算：JFGE から)

## ●球磨川プロジェクト

### ●球磨川河口のラムサール条約湿地登録を支援

登録に向けて農業関係者・行政との懇談を予定している。

\* 予算 111,000 円 ( /175 万円 経団連自然保護基金)

### ●現地団体支援

「次世代のためにがんばる会」の活動を支援。勉強会や体験型学習の講師派遣等。

## ●久米島プロジェクト

清流ラムサールサイトのワイズユースを推進すると同時に、かつての棚田の風景を取り戻し、サンゴ礁に影響を及ぼしているサトウキビ畑から流出する赤土の沈殿池としての機能を取り戻す長期展望に基づく計画の 1 年目となる。

本年は、地元のキーパーソンを中心として、地元根付いて活動している NPO や漁業組合等と協力して、1.赤土調査の実施、2.リーフチェックの実施、3.ホテル館周辺での生きもの調査、4.高校生による聞き書き、5.水中撮影、6.成果報告会を 1 月までに実施する。

\* 予算 Patagonia TIDES Foundation (200 万円)

## ●2022 年吉野川プロジェクト事業

吉野川では、最河口の高速道路橋が今年 3 月に開通し、20 年間に亘る、河口域に係る 3 件の大規模開発事業（2 本の渡河橋、人工海浜造成）の建設が終了し、現在高速道路橋の事後モニタリング調査が継続されている。複数の開発による人工改変後の河口域保全を具体的に検討するために、昨年からの継続事業として、下記 2 点を提案する。

1)ラムサール条約湿地登録を目指すために、吉野川河口、汽水域の価値を再評価し、県内外の様々な応援者をつなぐ情報共有の場づくりをする。そのためのオンライン会議として、『吉野川河口みらい講座』（2ヶ月に1回ずつ）を継続して開催し、YouTube 公開する。

2) シギ・チドリ部会での吉野川河口の調査データの情報整理。最河口の高速道路橋モニタリング調査において、シギ・チドリ類、底生生物、地形変化等の情報が集積し公開されており、河口域が持つ科学的データとしては全国でも屈指と言われている。昨年に引き続いて、これらの総合評価、事後調査等の情報収集を行い、併せて今後の吉野川河口域保全の課題と方法を整理する。また、吉野川河口においては、2本の渡河橋が開通し、著しい環境変化があることから、現状把握するために、現地視察を行い、地元と意見交換を行う。

(予算 22万円)

## <2.政策提言>

### ●国内の政策提言

#### ・生物多様性国家戦略への働きかけ

生物多様性国家戦略改訂において、湿地（特に水田、汽水域、浅海域など）の保全が十分に組み込まれるように検討を行う。改訂への働きかけでは、国内の NGO と連携する。

#### ・ラムサール条約および生物多様性条約の水田決議に基づいた政策提言

水田決議円卓準備会において、農林水産省・環境省・国土交通省との意見交換や政策提言を行う

## (3)普及・啓発事業

### ●湿地のグリーンウェイブ (WGW)

#### ・キャンペーン(4月～8月)

##### 1)パンフレットの作成・配布

湿地のグリーンウェイブ 2022 キャンペーン参加団体の紹介、およびラムサール条約ファクトシートを盛り込んだ A5判フルカラー16ページ版のパンフレットを作成・配布する。

##### 2)専用ウェブサイトでのイベント紹介

参加団体によるイベント情報や実施報告、フィールドとなっている湿地の紹介などを専用ウェブサイトに掲載する。

##### 3)キックオフおよび報告イベントの実施

オンラインによる、湿地のグリーンウェイブ 2022 キックオフミーティング（2022年4月2日）および、湿地のグリーンウェイブ 2022 報告会（9～10月予定）を実施し、記録動画を公開する

※これまで連携してきたグリーンウェイブ（主催：UNDB 日本委員会）やにじゅうまるプロジェクト（主催：IUCN 日本委員会）については、後継プロジェクトなどが確定しないため、保留中。

#### ・広報と交流

1) キャンペーン参加団体専用の ML を設置して、情報の共有を図る。

2) Facebook の公開グループ「湿地のグリーンウェイブ」をはじめとする SNS の活用を図る。

3) ラムサール条約や湿地の保全・賢明な利用について各地で活動する人、関心を持っている人と直接交流する場として、オンラインお茶会をほぼ毎月実施する。

\*予算 14万円

## (4)国際協力事業

### ●翻訳プロジェクト

ラムサール事務局ウェブサイト上の「ラムサール条約 50 周年記念コーナー」に掲載されている 5 つの簡潔な FACTSHEET (Biodiversity/Carbon Capture/Disaster Risk Reduction/ Livelihoods/Water) の翻訳を完了しラムネット J の WEB に掲載する。昨年度積み残しの Biodiversity を今年度の早期に完了する。

2022年11月に中国・武漢でラムサール条約COP14が予定されており、採択が予定されている決議案（例、ユース決議）について早期に下翻訳に取り掛かり、COP後は速やかに採択された主要な決議の翻訳を行い公表する。

\*資金手当てなし

### ●日韓 NGO 湿地フォーラム

毎年12月頃に開催している日韓 NGO 湿地フォーラムは、本年度は日本での開催予定である。コロナの終息状況にもよるが本年度はなんとか八代市で現地開催したい。

ラムネット J としては、当面「水の自然な流れ」関連の事例報告をテーマとして位置付け、具体的内容は韓国側と協議していきたい。

\*予算 85万3000円（/175万円 経団連自然保護基金）

### ●エコユース八代の活動

2022年度も2021年度同様に、次世代のためにがんばろ会と協力して、エコユース八代（EYY、高校生）への支援活動を継続する。支援内容は、イベント時の講師派遣と、定期的に開催している YEW との Zoom 会議を通じた EYY メンバーの自発的活動に向けた支援である。

## (5) ネットワーク推進事業

### ●ニュースレター

これまでと同様に、2022年度も4回発行する（4月初旬、7月初旬、10月初旬、1月初旬）。特に今年はこれまでに紹介していないような湿地や団体の記事をなるべく多く掲載し、またそのような地域でのニュースレター配布（オンラインでの閲覧も含む）に取り組み、ラムネット J のネットワークの拡大を図る。

\*予算 20万円

### ●ホームページ等

ホームページで使用している管理ソフトが古くなり、サポートも終了しているため、新しいソフト（フリーウェア）への移行が必要となってきている。この数年の懸案事項であるが、予定通り実施できなかったため、今年度は作業時間を確保して取り組む。

### ●湿地ニュースの配信

ほぼ毎日の湿地ニュースの配信を予定する。

### ●パンフレット類

・ラムネット J 団体紹介パンフレット

企業、行政、他の NGO などにラムネット J に関するプレゼンテーションを行う際に使用する、組織や活動内容などを紹介したパンフレットを作成する。特に企業協賛の拡大のために活用する。

・ラムネット J 団体紹介リーフレット（個人向け）

ラムネット J の組織、活動、入会案内などを簡潔に記載した、会員募集、カンパ募集のための小型リーフレットを作成し、会員拡大のために活用する。

\*予算 10万円

## (6) その他の事業

2020年以來進めてきた基盤強化部会（評価、ビジョン検討、事業検討の各部会）による組織構築の課題検討作業は、スキームやマンパワーの点で適合しなかった。

総会において総括のうえ、昨年総会で検討しその後決定した短期計画（2021-2024）の実現というやり方で引き継ぐことを2022年総会で提案し議論してもらおう予定である。